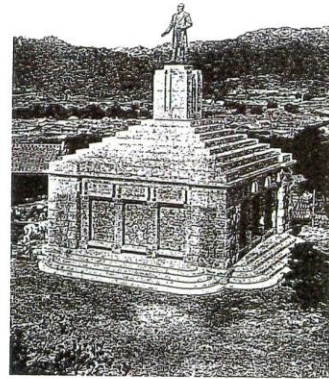


## ⑤ 大倉山公園と青丘文庫

大倉山公園はJR神戸駅の北に位置する、グラウンドや神戸市立中央図書館がある市民の憩いの場である。この公園はホテルオークラなどでも知られる大倉喜八郎の別荘であつたものを、後に神戸市に寄付したものである。大倉は朝鮮大倉農場を経営するなど、朝鮮を舞台として富を築いた。大倉と初代兵庫県知事であり、かつ初代朝鮮統監府の統監であつた伊藤博文とは関係が深い、その大倉山公園に伊藤博文の銅像があつたのである。いきさつは次のようなものである。



伊藤博文の銅像

明治の終わ  
りごろ、桂太  
郎首相や財界  
が、首相を四  
回も務めた伊  
藤博文の銅像  
を作った。設  
置場所に伊藤  
が湊川神社を

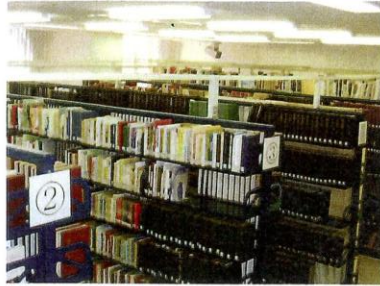


伊藤博文の像のあつた台座

立運動家安重根によって射殺された。伊藤死亡を契機に銅像再建の話がもちあがり、神戸を見渡せる諏訪山公園に再建することになった。しかし大倉はその場所が不便であり、訪れる人も少ないであろうから、自身所有の大倉山を神戸市に寄付してそこに建てることになった。そしてその像は一九一一

(明治四四)年九月に完成した。ところが皮肉なことに太平洋戦争の時期に「金属供出」によってこの像も提供されてしまい、現在はその立派な台座だけが残っている。

神戸市立中央図書館は、地元の人は大倉山図書館と親しみをこめて呼んでいる。阪神・淡路大震災後に増築工事が行われ、別館特別室に朝鮮史の図書館「青丘文庫」が入った。この文庫は実業家であり朝鮮キリスト教史の研究者でもあつた故韓哲曦氏が、長年収集してきた約三万点のコレクションを収めたもので、日本国内で朝



青丘文庫の内部

希望したので、一九〇四(明治三七)年一〇月二日、湊川神社の本殿右側に設置された。しかし、日露戦争後のポーツマス条約の内容に怒った民衆が、一九〇五(明治三八)年九月七日、その銅像を倒してしまつた。朝鮮を植民地化するのに功績をなした伊藤は、朝鮮人からみれば民族の敵である。伊藤は朝鮮統監の在任中の一九〇九(明治四二)年一〇月二六日、ハルビンで朝鮮人の独

鮮近代史を中心とした基礎資料が体系的に収められている図書館としてよく知られている。

韓氏が一九七〇年ごろから自宅で自身の研究のために収集を始めた本であつたが、一九七二年に長田区のゴム工場の自社ビルの一部に移され、更に一九八六年には須磨区に新築された自宅に移転した。そして震災のち中央図書館に移されたものである。図書は申請をすれば誰でも利用することができるようになっており、文庫では毎月一度(基本的に第二日曜日)に在日朝鮮人運動史研究会と朝鮮近代史研究会が開かれていた。この研究会も自由に参加できる。一度は足を運んで欲しい施設である。

(飛田雄二)



大倉山公園  
伊藤博文像台座  
神戸市中央区楠町 7  
TEL: 078-341-6648  
青丘文庫 (神戸市立中央図書館)  
神戸市中央区楠町 7-2-1  
TEL: 078-371-3351